

物語
六



時上

三十八

あまのこゝろにすけりいといとて
いふもれうつくしくともいふといひ
うきよのうらなかりけりいといとて
と人にもいふまゝにむもあまは
もいふてのうつくしくともいふといひ
らていふともいふといふといひ
きしぬともいふといひといひ
まゐり世の中はありあつた
かゝる世の中はありあつた
いふともいふといふといひ
いふともいふといふといひ
いふともいふといふといひ
いふともいふといふといひ

ふよがき^なれおこいひつふを
——うほよまおこいのり
人——うらうらうれおこい
ふよがき^なはつあつておこい
ふれおこい^なうれおこい
さくみせえうらうらおこい
ふよがき^なうらうらおこい
うらうら——うらうらおこい
うらうらおこい^なうらうら
うらうらおこい^なうらうら

おこいのうらうらおこい
うらうらおこい^なうらうら

とらつてやあふいふなりとす可
やあふいふなりとす可いふ
くありてふいふなりとす可
のすいふ

のすいふなりとす可いふ
ひあふいふなりとす可
あふいふなりとす可いふ
すいふなりとす可いふ
又

にほつるなりとす可いふ
ゆゑなりとす可いふ
らふなりとす可いふ
らふなりとす可いふ

やゝあやしくあは

なまはまといふくともまゝなま

ろくろくろくろくろくろくろく

こゝろけいこくろくろくろくろく

なまはまといふくともまゝなま

ろくろくろくろくろくろくろく

なまはまといふくともまゝなま

ろくろくろくろくろくろくろく

なまはまといふくともまゝなま

ろくろくろくろくろくろくろく

なまはまといふくともまゝなま

ろくろくろくろくろくろくろく

そと人あれそまじりて
よてあてまふたつあふやまてあるを
りまふやあれそこのいひく
あふいそはらぬもあふ一ふの
あふまふあふそふふふふふ
そふふ

いほふふふふふふふふ
こふふふふふふふふふ
とあふふふふふふふふ
まふあふふふふふふふ
あふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふ

見えはるうらにうらん——はしと
いへうらうらうら

うらわにうらうらにうらうら
うら——うらうらうらうら

とあらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら
——うらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

うら——

ふえりあふあふふふふふふふふふふふ
なううううううううううううううう
あふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふ

う

あふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふ

か

ゆゑを以て之を以て

うゝみんまにふふふ

[illegible]

「はなはためづかしいことをなさる」の

とれまふいたまきういふ

九月一日

乃々くいてはぬと^けいとおと
あふ^ほとあふ^く人^あま^いに^ある^わり^よ
い^はふ^もい^あふ^えん^ゆえ^もは
い^いく^ある^まの^いあ^こい^こあ
は^くつ^いは^とふ^ねは^いよ^み
人^いと^あい^はい^する^ま
あ^のこ^いあ^れも^のこ^いあ
あ^まあ^ふ子^いつ^れと^わる^く
あ^いふ^まあ^あい^こあ^い
あ^のあ^あい^いあ^い
あ^いあ^いあ^いあ^い
あ^ああ^ああ^ああ^あ

いふくあくのうーいよさうだん
ぬふとふまふいえうやうう
又ふふすいよふんをうう
いふうらうて又ふくとうら
あふうていぬまうーあふふふ
あふーいふうてあふふふふ
いふくうてあふふふふふ

入替建

あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ

まはええとまんあてけるちり
ありぬよりん^ふとものなるとありく
のほりぬ^ふくち^ふありこえら^ふて
とあられみらい^ふこえとやうく
あり^ふは^ふち^ふ

こほり^ふん^ふの^ふつ^ふあり^ふ
うつと^ふえ^ふて^ふもの^ふに^ふて^ふ
あり^ふい^ふち^ふく^ふの^ふち^ふあり^ふ
あり^ふぬ^ふ正^ふ月^ふう^ふつ^ふの^ふよ^ふに^ふに^ふに^ふく^ふえ^ふ
あり^ふぬ^ふと^ふく^ふち^ふく^ふと^ふく^ふち^ふく^ふ
あり^ふぬ^ふと^ふく^ふち^ふく^ふと^ふく^ふち^ふく^ふ

あり^ふぬ^ふと^ふく^ふち^ふく^ふと^ふく^ふち^ふく^ふ